

「お証し」 大江 美香

2019年7月21日

私は、約9年前の12月19日に、ここ北浜教会で洗礼を受けました。この12月19日という日は、ちょうど父親の他界した悲しい日でしたが、同時に新しい父、天のお父さまが、私の父親になってくださった、喜びの日にもなりました。もともと私のカウンセリングを受けてくださっていた堀内さんという方から、北浜教会と黒田先生、フランクリン・グラハムフェスティバルを紹介いただきました。フランクリン・グラハムフェスティバルは、2010年10月大坂城ホールで行なわれた、大規模な伝道イベントでした。堀内さんからプレゼントしてもらった偉大な伝道者ビリー・グラハム博士の息子であるフランクリン・グラハム師の本と堀内さんの説明で、とても興味を覚え、伝道イベントの日を楽しみにしていました。

そのイベントの2日前の夜の事です。以前の職場の上司と同僚の二人の男性が夢の中に現れて、家を指差し『あの家の2階にいる女性のマッサージ、すごく上手いから、大江も行ったらいいよ』と言われ、私はすぐに、その家の2階に行きました。すると二人の女性が現れて、ニコニコしながら『もうすぐ、あなたの胸の中のドラゴンが消えて、苦しみがなくなりますよ・・・』と、優しく言ってくれたのです。

今振り返ると、私の人生は、2010年の年のたった3ヶ月程の間に、黒田先生との出会い、フランクリン・グラハムフェスティバルの参加、そして洗礼へと、呪われた人生から、祝福の人生へとトントン拍子に展開していきました。自分はそんなつもりはないのですが、神さまに逆らいながら最高の人生を見出そうとする矛盾だらけの人生が、神さまに純粋に、従順に、可愛げある自分を捧げる人生、神さまに一途についていく人生こそが、大きな安心に包まれた、望み通りの人生だったことを知りました。そして、本当に恵まれている私自身を喜びました。

この9年の中で、私は奇跡のような素晴らしい体験をいくつもしました。私が最初に黒田先生にお会いしたとき、一番に黒田先生にお伺いしたことが『聖書を勉強すると、お金は増えますか・・・？』という、今考えたら、身の程知らずの質問でした。でも・・・正直、聖書を学んで、いくら心が清く美しくなっても、貧乏だったら、そんなの全然嬉しくないなあって思って、聖書を勉強するにあたって、しっかり聞いておこうと、ストレートに黒田先生にお伺いしました。

『黒田先生、聖書を勉強すると、お金は増えますか・・・？』すると、黒田先生は『大丈夫ですよ。神さまは私達を豊かにしてくださいますよ。』と、おっしゃられ、先生の返答にびっくりしながらも、とても希望に満ち溢れました。

黒田先生は私に対して『何を言いだすんや！下世話な・・・』っていうような雰囲気は微塵もなく、そのあと丁寧に『アメリカで一割献金をした男性が、どん底の暮らしからビジネスで大成功し、今ではアウトレッドモールを3ヶ所も経営していて、一割献金の素晴らしさを沢山の人の人に伝えているんですよ。』って、それはそれは素晴らしいお話を聞かせてくださいました。

そのころの私は、勤めていました会社から独立して、2 年目ぐらいの時で、(会社は脳力開発、自己啓発の会社で、私は営業をやっていましたが・・・)仕事での収入は、お金に困ることはありませんでしたが、生活が普通に出来る程度の収入でした。しばらくして、黒田先生から教えていただいた通り、収入の一割を毎週、献金袋に入れて、コンスタントに献金をはじめました。

マラキ書 3：10

『十分の一をことごとく、宝物倉にたずさえて来て、わたしの家の食物とせよ。こうしてわたしをためしてみよ。――万軍の主は仰せられる。――わたしがあなたがたのために、天の窓を開き、あふれるばかりの祝福をあなたがたに注ぐかどうかをためしてみよ。』のみことばの通りです。

そのために、まず一年間ぜったい日曜礼拝を休まないことを決断しました。さらに、私の仕事は、営業でしたが『一切の売り込みはやめて、まずお客さまのニーズを明確に把握して、そのお客さまのニーズを自分事のように考え、親身になってお手伝いをする。気持ちよくお手伝いをする。喜んでする。』を、繰り返していきました。

ルカの福音書 6：38

『与えなさい。そうすれば、自分も与えられます。人々は量りをよくして、押しつけ、揺すり入れ、あふれるまでにして、ふところに入れてくれるでしょう。あなたがたは、人が量る量りで、自分も量り返してもらうからです。』

商品を買ってもらう。お金をもらう。という『もらう』側から『喜びを与える』側に徹していくと、みことばの通り、みるみる売上げに恵まれ、それも自ら営業をしなくても、売り込まなくても、お客さまからのご紹介があったり、お客さま自らのお申し込みで、大きな売上げを達成することが出来ました。当然のことながら、一年間は、日曜礼拝を休まずに通うことが出来ました。

すぐに、大きく結果が伴いましたので、献金額もどんどん増えていきました。でも実際献金額が増えると、それはそれなりに『こんなに献金しなくてもいいんじゃないだろうか・・・』とか『本当に、献金で莫大な収入に繋がっていくのだろうか・・・』とか『この献金は、本当に、愛を持ってすべて神さまのところに捧げられているのだろうか・・・』など・・・次元の低い発想が、私の心を惑わしてきました。これは、私の罪が、まだまだ潜んでいる証拠だと感じましたので、もっと命が輝くように、神さまに願い求めました。

また、一割献金をきっちりやっていることが、義務を果たしたようになってしまって、本来の『神さま、こんなに素晴らしく多くの恵みにありがとうございます。』という喜びを、神さまに捧げている、神さまと分かち合っていない・・・単なる作業になってしまった時期もありました。そうすると、イッキに出費が多くなっていきました。心から喜んで、気持ちよく、一割献金を神さまにお捧げすることは、沢山のお金に恵まれ続けることだとわかりました。世の中が不景気でも、まったく関係なく、お金は流れ込んできます。

でもまだまだ、宝はお金ではなく、本当の宝は、その先、その奥に眠っていました。光輝くのは

お金ではなくて、神さまの真理こそが、光輝くものでした。自分で体験してわかったのですが、その恵まれたお金を更に、よきサマリア人のように、隣人のために喜んで使っていくことが、天に宝を積むこととなり、どれほど私自身が喜びに満たされて、豊かに報われていくのかを・・私は、神さまから教えていただきました。

箴言 23：4

『富を得ようと苦労してはならない。自分の悟りによって、これをやめよ。』

私の初めて礼拝に出た時のタイトルが、何と『呪われた十字架』というタイトルでした。『呪いの反対は祝福です。』と、黒田先生は、おっしゃってくださいました。『神さまに愛され守られた、祝福の人生』、私はここにも、光を感じました。

この9年間の中で、私は奇跡のような感動的な体験を沢山しました。その体験を聞いてくださる方々の口から『宗教の話しだったら、ごめんです。』と言われたことは、一度もありませんでした。逆に、聞いてくださる方々の目に、喜びと輝きが戻ってくるのを見てきました。『誰もが神さまを求めているんだ』本当に私のしあわせを感じる瞬間です。これからも沢山の奇跡を体験し、沢山の奇跡を語り、神さまが、どれほど私達を思い、愛し、守ってくださっているのかを、生涯私のミッションとして伝えていきたいと思います。

これからの私達の喜びが、愛する天のお父さまの栄光として、輝きますように。

2019 年 7 月 21 日

礼拝証し

『救い主は待っておられる』

あなたは、どこにいるのか（創世記 3:9）

- < P a r t 1 > 『おかえり』
- < P a r t 2 > 黒田牧師との出会い
- < P a r t 3 > 2 度目の『おかえり』
- < P a r t 4 > もう一度、わたしと一緒に歩こうぜ！
- < P a r t 5 > 会社の上場
- < P a r t 6 > 神戸の祈り
- < P a r t 7 > 救い主は待っておられる

北浜インターナショナルバイブルチャーチ

広瀬全宏

2019年7月21日

おはようございます。只今紹介にあずかりました、広瀬です。
本日お証しさせていただける恵みと光栄を、主様に感謝申し上げます。
本日のテーマは『救い主は待っておられる』であります。
この中で、私のような者に注がれております神様の愛を、
また皆様方に対する神様のみ思いを、感じ取っていただければ幸いに存じます。

< P a r t 1 > 『おかえり』

私の教会生活とビジネス街中之島には、不思議な関係があります。

私が、イエス様に会ったのは、昭和49年（1974年）12月、京阪天満橋駅の大阪マーチャングイズマートビル（OMMビル）でのクリスマス集会でした。当時寝屋川にある大阪府立高専に通う同級生に誘われ、十字架のメッセージに出会い、翌月にイエス様を信じました。

その時、私の属した教会（和泉キリスト集会<JR 和泉府中駅>）はビジネスマン伝道に力を注ぐ平均年齢30歳前後の若い教会でした、信者の数が着実に増え、心斎橋集会への株分け、その2年後、東住吉集会と肥後橋集会への株分け、まさにビジネス街の中心地へと前進あるのみでした。

学生仲間との心斎橋ソニータワー、パルコ前路傍伝道・中之島公会堂大ホールでの1500名特別伝道集会など懐かしい思い出があります。

ところが、根の浅い信仰者であった私は、伝道熱心な教会のハードスケジュールについていけず、入信4年あまりで、教会を離れ、17年あまり神に背を向けて、エデンの東を歩んでしまいました。

しかし憐れみ深い神は、阪神淡路大震災の年：平成7年（1995年）1月8日にルーテル帝塚山教会での教会生活へ信仰回復させていただきました。

この時、恵みの体験をさせていただきました。

翌月2月の第一日曜日、この日は、聖餐式の日、17年ぶりの聖餐式でした。
パンを噛みしめるたびに、

「あ～、主のもとに帰ってきた～」という何とも言えない安堵感（平安）が心に拡がりました。
その時、『おかえり』という神様の声が聞こえてきました。

と、同時に「神様ごめんなさい」という悔改めの思いがこみ上げ、涙が溢れてきました。

神様のメッセージは『 おかえり 』でありました。

< P a r t 2 > 黒田牧師との出会い

私は、「1年間祈って、1年たったらルーテル帝塚山教会に転入しよう」と考え、祈っていましたが、時間がたち、祈り続けるほどなぜか心に安らぎがありませんでした。そんな中、平成8年1月に奈良の橿原で近畿福音ルーテル新年聖会がありました。その時特別講師として招かれていたのが黒田禎一郎牧師でした。

この出会いが北浜チャーチへの第一歩となりました。20年前に聞いたことのある共産圏伝道の話がありました。聖書的な歴史観、メッセージを通して共産圏クリスチャンの命をかけた信仰の証しと祈りが、神の御手を動かし、鉄のカーテン、ベルリンの壁を打ち破ったんだということを教えられました。

『私の魂が求めているのはこれや、この人の教会や』と思いました。そして、なお祈りつづけて、神様の導きと信じ黒田牧師の当時の教会SIBC（堺インターナショナルバイブルチャーチ）へ通うようになりました。

< P a r t 3 > 2度目の『おかえり』

当時黒田牧師は、大阪市内での超教派のビジネスマン伝道として、天満橋エル大阪（大阪労働会館）にてシャローム聖書研究会・月曜礼拝などを導いておられました。

ある月曜日、天満橋エル大阪の窓から土佐堀通りを眺めていた時に、私の心に、なぜか、懐かしさがこみ上げて来ました。その時にも『おかえり』という神様の声が聞こえてきました。

ここから、神の御手が、大きく動いていくのを目の当たりにしました。

そして、私は、北浜チャーチの前身：内平野町 I B C：インターナショナルバイブルチャーチへ集うようになりました。

< P a r t 4 > もう一度、わたしと一緒に歩こうぜ！

この内平野町 I B C の会堂の位置は、20 年前に私が通っていた、肥後橋キリスト集会の真東 1.5K m、両者は同じ（緯度の）平野町通沿いにありました。

そして、この2か所の真ん中には、ガス灯で有名な三休橋筋があり、その北の終点はかつて肥後橋キリスト集会の伝道の拠点であった中之島公会堂や、私が教会を離れた時、自分の道を実現するために、もがき必死で勉強していた私にとっての古戦場：中之島図書館がありました。

これらはまさに、神様の粋なお取り計らい・心憎いばかりの演出でありました。

神様が、「わたしは、おまえのすべてを見てきたよ、こうなる事を知ってたよ、でも、この場所を用意して待ってたよ、もう一度、わたしの前を歩みなさい」と再スタートのチャンスをくださったのでありました。

神様のメッセージは『 もう一度、わたしと一緒に歩こうぜ！ 』でありました。

< P a r t 5 > 会社の上場

私の学生時代の専攻は土木工学科でした。

でも就職活動では、神様の働きを最優先と考え、転勤のない会社、内定数社の中で、教会から最も近い徒歩150m、心斎橋筋にある従業員20名程度の紳士服地卸販売の会社を祈り選びました。

しかし、この会社で、私は、教会と神様のみもとを離れてしまいました。

神様のもとを離れた当時23歳の私は、頼れるのは自分だけと考え、人生のやり直し、会社を退社し、学校に行き直して、一流企業に就職することを目指しましたが、夢はかなわず、受験に2度失敗しました。

その時、父が自宅建て替え、60歳で2000万の借金を背負うようになり、私は、父の経済的負担を減らせるようにアルバイトを始めました。そして、母校の先生の紹介と強力な後押しで、そのアルバイト先に中途採用者として就職しました。

昭和56年（1981年）、就職した会社は、資本金3億円、従業員1200人のIT系企業の大阪支店でした。所属は技術計算：土木分野：橋梁の設計・製作システム担当でありました。

場所は、肥後橋センタービル13階。以前通っていた肥後橋キリスト集会の入っているビルから150m、窓からはっきりと見えるところでした。入社当時は、「エライところに来たもんや」と思いました。通勤時には肥後橋キリスト集会の兄弟姉妹とは顔を合わせないように注意していました。

それから15年、会社は事業拡大し、私の信仰回復1年後の平成8年2月1日。東京証券取引所2部に上場（3年後に1部上場）しました。しかも、その同日、会社の中では番狂わせ人事と言われましたが、私は、同期や一期先輩方の中でトップに課長代理、翌年課長に昇格しました。

「上場企業の課長」、今から考えれば小さな夢、でもこれが、教会と神様のもとを離れた当時23歳の

私のもがき求めていた物である事がわかりました。

神様はいっさいのことをご存じで、主のみもとに立ち帰ってきた私へのご類美として、この日を準備し待っておられました。

神様は、私の『心の底の底』、『心のひだ』まで読んでおられました。

< P a r t 6 > 神戸の祈り

黒田牧師との出会いの2日後、平成8年(1996年)1月17日に忘れられない経験をしました。

私の教会生活回復：リバイバル1週間後に阪神淡路大震災がありました。

この日、私は神戸の川崎製鉄岩屋工場で打ち合わせの予定でありました。

この日に先方担当者Iさんが、震災でなくなられました。千葉からこの仕事の為に長期出張で春日野道のマンションに泊まっておられたのです。3連休の為、震災前日に千葉から神戸に入られて、この日になくなられたのでありました。

一方、震災の1週間前に主のもとに立ち返った私は、この1年間さまざまな祝福を受けてきました。

仕事の方では、3号神戸線震災復旧30kmの全(30)工区のお手伝いをさせていただきました。その他にも明石大橋を始め、数多くの復旧業務に携われました。

震災の年の12月頃から、この亡くなられたIさんのマンション跡地にお花を置いて祈りをおさげしたいと願っていたところ、年明け早々に、1月17日午後に神戸の三菱重工様での打ち合わせ予約が入りました。

お花を置いて祈りたいが、場所がわかりません。

どうしたらいいのか、いたずらに時間が過ぎていくなか、とうとう、平成8年震災記念日を迎えました。

しかし、この朝一番に、亡くなられたIさんの上司、私達大阪支店の営業エリヤではない東京の方より電話で、仕事の依頼がありました。

これも神様のご配慮でありました。事情を説明し、仕事の資料とともにIさんの亡くなられたマンションの地図をFAXして頂きました。

そして、震災記念日の夕方7:00頃やっと春日野道のマンション跡地にお花を置き、Iさんのご遺族の方、被災者の方々の為に祈りを捧げる事が出来ました。

祈りを終えて、頭を上げた途端に、涙が止めどなく溢れて来ました。

「神様を知らない6500名近い人々が、亡くなられたのに」

「この俺は生きている。」 「いや、生かされている。」

「多くの方々が被災され、苦しみを受けているのに、俺は祝福の道を歩かせて頂いている。」

「神の前に滅ぼされるべきは俺やったのに。」

「神を知っていながら15年以上も神に背を向けて生きてきたのに」

「でもこの俺は生きている。」 「いや、生かされている。」

「主よ、ご覧のとおり、こんな不忠実な不従順な者ですが、あなたにこの身を捧げます。あなたの御用の為に私をお用い下さい。」と、祈らせていただきました。

救い主は、この場を準備し、私のこの祈りを、「待っておられました。」

そして、この時心に響いてきた聖歌298番<世にある限り>を賛美しながら、泣き顔を見られなくなかったので、暗い道を選び、三宮駅へと歩きました。

現在も、毎年1月17日には、神戸、春日野道を訪れ祈りを捧げております。

< P a r t 7 > 救い主は待っておられる

私は、かつて、神への信仰を棄てましたが、神は私を見捨てることなく、忍耐の目で私を見守り、ご自身の計画の時に、私を、捉えてくださいました。

神戸の祈りから23年、
それでも決して忠実・従順とは言えない私を、神は、今もお支え下さっておられます。

私がキリストに出会う前から、こうなる事を知っておられたのに
救い主は待っておられました。

あなたは、どこにいるのか（創世記 3:9）。
という、この神様のお言葉、

『救い主は待っておられる』
という、この神様のお心を受け取り、

残された人生、これからの道を歩みたく願います。

ご清聴ありがとうございました。

2019年7月21日（日）

テーマ：「忘れないでください」

聖書：わがたましいよ。主をほめたたえよ。主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな。

詩篇103・2

はじめに

- ・「忘れないでください」

神は私たちに目そそぎ、いろいろな形で愛の目で見守ってくださるお方です。

「わがたましいよ。主をほめたたえよ。主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな。」

詩篇103：2

- ・今日、3点覚えましょう。

大切なポイント

1. 主に感謝すること

- ・イスラエルの民は、430年間もエジプトで奴隷でした。

モーセは、200万人以上のイスラエルの民を導きカナン（神の約束の地）へ。

- ・約束の地へ入る直前、リーダーの交代（モーセからヨシュアへ）

今日のテキストは、そのヨシュアへの言葉である。

ヨシュア記1:5「あなたの一生の間、だれひとりとしてあなたの前に立ちはだかる者はいない。わたしは、モーセとともにいたように、あなたとともにいよう。わたしはあなたを見放さず、あなたを見捨てない。」

- ・ここで大切なこと ⇒ イスラエルの神は、常に過去を覚えよ！という。

詩篇103:2「わがたましいよ。主をほめたたえよ。主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな。」

- ・ 私たちも世の雑踏から少しの時間離れ、北浜の霊のオアシス「北浜チャーチ」に集うことができたことを感謝しよう。

2. 勇気をもつこと

- ・神はモーセの後継者ヨシュアに、「強くあれ。雄々しくあれ」

3回（6，7，9節）で言われました。励まし、勇気を与えられました。

- ・全能の神がともにおられるからです。これは勇気をいただく言葉です。

神の本性のひとつ ⇒ “真実”

- ・勇気 ⇒ 生きるのに必要だ。神は真実で正しいお方です。語られた言葉に責任をもってくださるお方です。

3. 主から励ましをいただくこと

あなたの一生の間、だれひとりとしてあなたの前に立ちはだかる者はいない。わたしは、モーセとともにいたように、あなたとともにいよう。わたしはあなたを見放さず、あなたを見捨てない。 ヨシュア記

- ・ヨシュアはこの言葉をいただき、ピーンときた：「2つの約束」

- ① 共にいる（モーセとともにいたように）
- ② 見放さない、見捨てない

- ・この二つの約束は、ヨシュアをどれほど励ましたことでしょうか？

『例 話』

- ・小さな私もクリスチャン生活の中で、神から励ましをいただきました。
忘れられない「思い出」となっていることの一つは、1976年6月、ドイツ・デュッセルドルフで献身し、在住邦人伝道を開始した時のことです。
- ・多数の日本人の方々が魂の渇きを覚え、日本人教会に集まってこられた当時、私はまだ大学生でありました。主様から召命のみことばいただきました。 申命記28章
28:12 主は、その恵みの倉、天を開き、時にかなって雨をあなたの地に与え、あなたのすべての手のわざを祝福される。それであなたは多くの国々に貸すであろうが、借りることはない。
28:13 私が、きょう、あなたに命じるあなたの神、主の命令にあなたが聞き従い、守り行なうなら、主はあなたをかしらとならせ、尾とはならせない。ただ上におらせ、下へは下されない。
28:14 あなたは、私が、きょう、あなたがたに命じるこのすべてのことばを離れて右や左にそれ、ほかの神々に従い、それに仕えてはならない。
- ・私はこの言葉に圧倒され、身動きできなくなりました。そして献身をしました。その時の私の問題は、若干30歳（正式にはまだ29歳）で、神学的訓練も受けていない身でありました。それに2人の子どもがいる家族持ちで、経済的問題がありました。
- ・集ってこられた日本人は、高度経済成長期で油の乗り切ったトップ・ビジネスマンたち（40代～50代）、そしてその家族でした。
 - ・どう考えても、このような未経験の若者が教会のリーダーとして立つには、あまりに冒険でありました。今、振り返ると、恐ろしくさえ思います。
しかし神の与えてくださった「みことば」は、確かでした。海外の教会は信者の移動が激しく、たとえ教会が建てられても、いつまで継続できるかはまったく不透明です。教会建設の可能性は不透明でした。
 - ・しかし、神のみことばは「然りであり、アーメン」でした。
あれから約43年、デュッセルドルフ日本語教会は現在も存続し、6代目牧師ヘーゲル師ご夫妻を迎えて毎週礼拝が開かれています。感謝！！
この教会が欧州において、一番はじめに日本語で礼拝する日本語教会になるとは、私は夢にも思っていませんでした。神のくすしきお導きでした。
- ・神のみことばは「然りであり、アーメン」です。
そこで、私たちにとって何が大切でしょうか・・・？
今日のメッセージをまとめてみましょう。

ま と め

テーマ：「忘れないでください」

「わがたましいよ。主をほめたたえよ。

主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな。」詩篇 103 : 2

1. 主に感謝すること
2. 勇気をもつこと
3. 励ましをいただくこと

* God bless you!